

セルフライナーノーツを書くにあたって

僕がここに書いたライナーノーツは当初、アルバム音源完成後に、CD屋さんにアルバムを認知してもらう為に、必要なんじゃないか、ということで書いたものだった。だから、これらを書いたのは、大体それぞれのアルバムの制作が終わってから、発売までの間と考えてもらいたい。

ホームページでライナーノーツを発表しようか、という話になった時に、no placeについては、大幅に書き直しの必要性を感じた。だから、初稿をもとに、加筆修正をした。yes, please, に関していえば、文章の意味が分かりづらい所だけ、手を入れるに留めた。

no placeを書き足した理由は、それを読んでもらう対象が純粹に音楽を聴く人に向けてのものじゃなくなっていたからだ。初めに書いたyes, please. の文章が、僕たちのことを知らないCD店や音楽関係の人たちに読んでもらっても、手応えがなかった。僕はno placeの時はなるだけ、個人的な事を避けて、もっと未知の人に、ビジネスをやっている人に、とつき易くなるよう心がけた。…で、やっぱり分かってもらえる事は少なかった。

sonicを理解してくれている人に読んでもらうには、僕の書いたライナーノーツは、宣伝用の資料で、充分なものとは言えなかった。

修正作業をしながら、yes, please. を作った当時に抱いていた気持ち、そこに書かれたものが、今の自分への音楽に対する手紙になっているようで嬉しかった。

曲に対して、作者側から物を書く事で、曲を固定観念に押し付けてしまうのだろうか…という不安もあったけど、僕の音楽は個人的な映画や小説と同じで、すごく個人的な所からストーリーがあるものなので、きっとまた違う視点からアルバムを楽しんでもらえる、理解してもらえる機会になるのだろうと思うことにした。僕は曲の答えを書きたい訳じゃない。昔お母さんが、自分が生まれた時の話をしてくれるとき、僕は楽しい気持ちになった。そういうことに似てるのかなと思う。似ていたらいいと思う。

オガワアキラ